



Victor・JVC

The Perfect Experience

経営統合について

第119期定時株主総会

第1号議案 ご参考資料

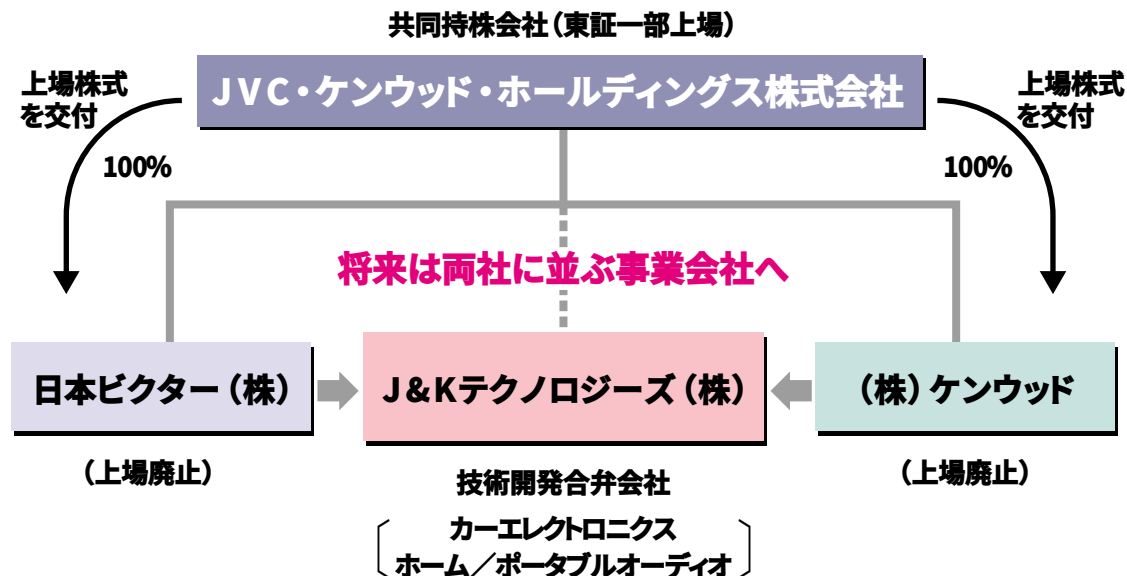


日本ビクター株式会社

経営統合のスキーム

■経営統合のスキーム 両社それぞれに構造改革を終えて経営統合

＊共同持株会社を設立し、株式移転により両社株式を100%保有
(両社株式に対し、所定の株式移転比率で共同持株会社の上場株式を交付)



経営統合の目的

1. 連携を拡大

【統合前】 共通事業（カーエレクトロニクスおよびホームオーディオ）における開発、生産・調達面などに限定

【統合後】 他の事業領域（現行事業・新事業）や他の活動領域（マーケティング・販売など）へと拡大

2. J&Kテクノロジーズの役割を調達・生産分野に拡大

＊カーエレクトロニクス事業を強固な収益の柱へ

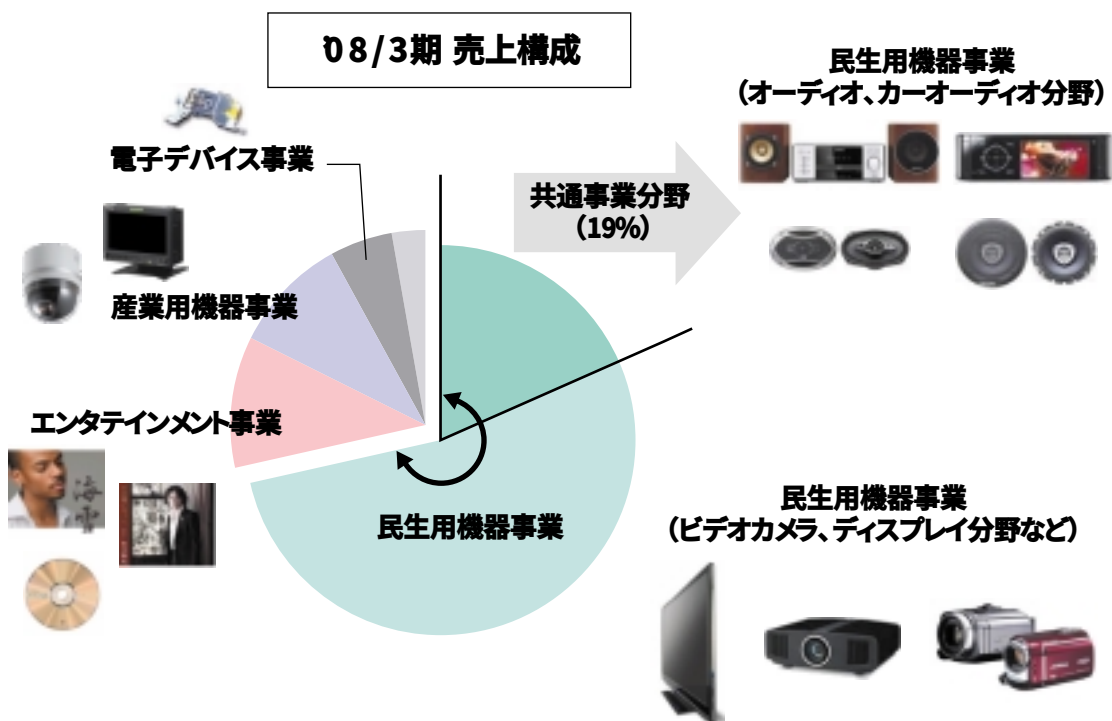
＊ホームオーディオ事業を収益事業化



**シナジー効果の最大化をはかり、競争力・収益力を強化、
統合効果によって企業価値を拡大・創造し、世界のAV
業界をリードする専門メーカーとしての地位確立**

経営統合の目的 ビクターのメリット

■統合効果でカーエレクトロニクスをビデオカメラ（カムコーダー）に次ぐ全社の第2のエンジンとしてさらに強化



経営統合によるシナジー効果

■売上シナジー300億円+利益貢献

- ＊カーエレクトロニクス事業の売上拡大
- ＊新事業の売上創出

■コストシナジー100億円

- ＊共同開発による開発負担減
- ＊部材の共同調達による調達コスト減
- ＊生産の相互委託や物流網の共有化などによる外注加工費・物流費減
- ＊知的財産の相互活用による特許料負担減 など

経営統合による財務・会計面での効果

■財務・会計面での効果

- * 負ののれん代の計上により営業外収益増加の見込み
- * 連結納税制度適用による税務メリットの増大

■キャッシュフロー面、バランスシート面のシナジー効果

- * 共通事業におけるスケールメリットの拡大、生産の相互委託により各事業会社のキャッシュフロー改善
- * キャッシュフロー改善の効果でネットデット圧縮
- * 生産革新や営業改革の推進により棚卸資産・売掛金圧縮



当期純利益やROEが増加

共同持株会社の経営方針

*新たな成長戦略の出発点

両社それぞれに構造改革を終えて経営統合

*新たな（カタ破りな）付加価値を創造

両社の技術・リソースを高度なレベルで融合した
全く新しい商品やサービス

***共同持株会社** →シナジー（統合効果）の最大化
と新事業開発の推進

両事業会社 →現行事業の業務執行

共同持株会社の経営方針 統合ビジョンと行動指針

統合ビジョン

「カタ破りをカタチに。」

行動指針

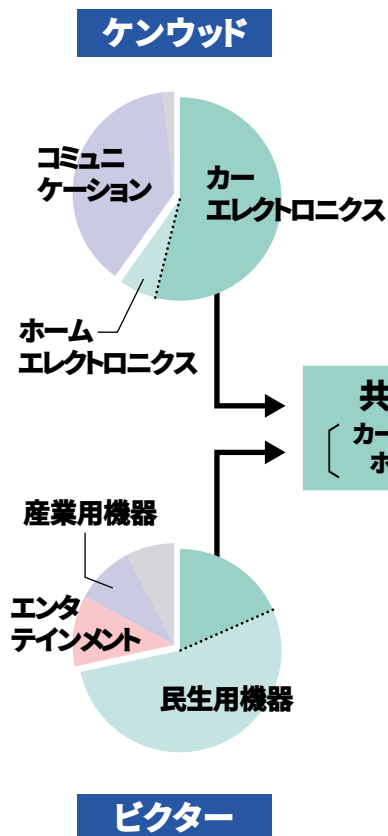
「一人一人が主人公となって
絶え間ない変革をやり遂げる。」

これらのもとで新たな（カタ破りな）付加価値を創造し、
お客様にこれまで経験したことのない「桁違い」の体験を
提供する。

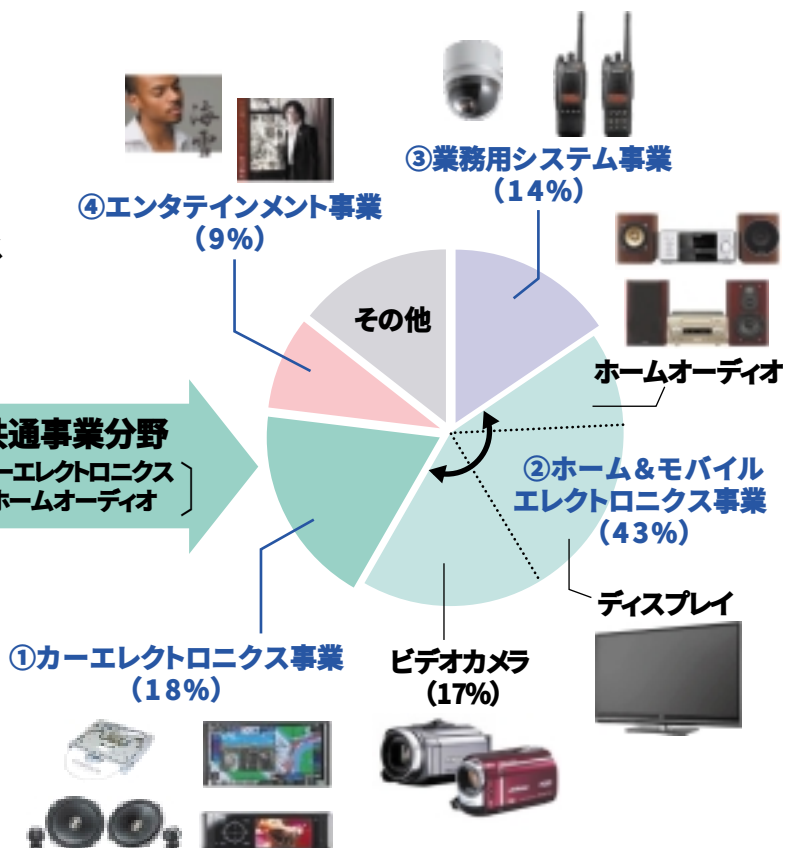
共同持株会社の経営方針

4つの事業セグメントと事業分野

売上構成（08/3期）



両社合計の売上構成（08/3期）



経営目標

収益目標 — 11/3期は 08/3期の約4倍へ

11年3月期目標 売上高 8,300億円、営業利益率 4.7%

